

令和5年度 第3回小牧市地域協議会推進市民会議 会議録

- 1 開催日時 令和5年11月28日(火)
午前10時～正午

開催場所 小牧市役所 東庁舎5階 大会議室

2 出席者

- 【1】 推進市民会議委員 14名
(欠席：兼子委員、野地委員、舟橋委員、藤本委員)
- 【2】 事務局 支え合い協働推進課
倉知課長、堀田主幹、臼井係長、富樫主事、落合主事、川口主事
- 【3】 傍聴者 0名

3 会議資料

- ・会議次第
- ・令和5年度 第3回 小牧市地域協議会推進市民会議 おしながき
- ・資料 1 第2回地域協議会推進市民会議 委員の意見まとめ

4 会議内容

- 1 あいさつ
- 2 第2回会議の振り返り
- 3 意見交換
- 4 その他

5 その他

【事務局】

ただいまより令和5年度第3回推進市民会議を開催させていただきます。

[欠席者の連絡]

[市民憲章の唱和]

それでは以降、加藤会長に司会進行をよろしく申し上げます。

【加藤会長】

改めまして。おはようございます。前は8月でした。11月は急に寒くなりましたね。正午までの時間ですけど、なるべく有意義な時間にしたいと思います。よろしく申し上げます。次第に沿って進めます。次第の1のあいさつは今終わったので、次第の2、第2回の会議の振り返りです。よろしく申し上げます。

【事務局】

それでは、次第の2第2回会議の振り返りについて説明させていただきます。第2回推進市民会議委員の意見まとめという資料をご覧くださいませでしょうか。こちらにつきましては前回の会議の折に委員の皆さんからいただいた意見をグループごとに表にまとめたものです。多く出された意見などは太字にしております。その中から抜粋して紹介をさせていただきます。

①地域（地域協議会）に関心を持ってもらうには、というテーマでは、住民から地域課題を募集するなど、ニーズを知ることで住民の興味関心を高めるなど、住民視点から地域課題を取り上げることが大切であるという意見が出されました。

②地域協議会の活動にもっと気軽に参加してもらうには、というテーマでは、できる時間に参加するという形式のごみ拾いなど、参加しやすい仕組みにするなど、従来の地域協議会行事の開催方法にとらわれない柔軟な開催のあり方が必要だとの意見が出されました。

③地域協議会の仲間を増やしていくには、というテーマでは、参加者に楽しみや、充実感などを持ってもらうことが大切など、参加者の楽しみや充実感をいかに伝えていくかが大切という意見が出されました。

④他団体・企業との積極的な連携・効率化を進めるには、というテーマでは、団体や企業側に地域協議会がこんなことができるということを知ってもらうなど、地域協議会側がしてもらいたいことではなく、協力してもらう相手のメリットは何があるのかを考えることが大切だという意見が出されました。

伊藤委員から出された意見では、地域協議会のミッションは、家族・個人の孤立を防ぐことなど、さまざまな地域課題の根っこであると考えられることについて意見をいただきました。

前回の8月の会議では、昨年度から4回かけて行ってきた地域協議会との意見交換をふまえ、地域協議会が共通して抱える課題について、委員の皆さんに議論いただきました。今日は、前回とはテーマを変え、引き続き皆さんに議論をいただきます。以上で説明を終わらせていただきます。

【森川委員】

ちょっと質問いいですか。

いただいた資料の中で「地域協議会のミッション」という伊藤委員の「家族・個人の孤立がまずい。家族単位や区単位で解決できない問題を地域協議会が受け皿になって寄り添っていく」との発言があるようですが、現実問題として地域協議会がそんな受け皿になっていますか。こんな難しいテーマを掲げながら活動はしていないです。非常に難しいと思います。

【事務局】

伊藤先生の意見として挙げさせていただきましたが、地域協議会が必ず行わなければならない課題という意味ではなく、理想としてこうあったらいいとの意見として記載させていただいております。また、実はもう皆さんが取り組まれているおたすけ隊などの事業がこういったことにもつながっているのではないかとの意見でした。すべての協議会で掲げられている目標であるなどとの意味ではなく、一つの意見として受け止めていただければと思います。以上です。

【加藤会長】

ありがとうございます。先回の振り返りとして事務局から説明がありましたが、この後の意見交換にも関わるとしますので、質問ですとか気づいたことありましたらどなたかご意見をいただけますでしょうか。

【吉田委員】

推進市民会議の目的は小牧市内の全ての地区に協議会を設立するというものでした。現在13校区で設立されていますのであと3校。16校が設立された後は自立してやっていくものでしょうか。最終目的が掴みきれない。ディスカッションで地域の課題を話し合うことも大事ですが、我々は一步上の話し合いをするべきでしょう。グローバルに考えていますが市民会議としてどうすべきか。私自身自問しております。考えを話させていただきました。

【小柳委員】

推進会議というのは、設立状況に応じて活動を進めてきました。僕たちのうち数名は協議会の会長でもあるのですが、この会議で話したことを持ち帰れるものは持ち帰ってかみ砕いて地域の方に共有しています。校区の会長としてやれることはかなり限界です。今やっている活動を深掘りして実施していくことで精いっぱいです。この場はそれとは別に理想としてどうあるべきかを話し合う場所だと思います。そういう理想の話を持ち帰って自身らの活動をどうすればいいかと考える場だと思います。以上。

【加藤会長】

すばらしいです。他にご意見ありますか。

資料をもう一度見てほしいのですが、もともとの設立の意図からすると、地域の課題の解決を地域住民で持続可能な形で行うことができたらいいなという仕組みであったかと思います。皆さんから出てきて事務局さんがまとめてくださった「課題」は地域課題に沿った活動ができているかということについて、今やっている活動で精いっぱい住民から個々の課題を細かく吸い上げているわけではないのに、どうやって地域課題を知っていき共有していくかについて、足りていないということは皆さんも言っているし、事務局さんも思っている事だと思います。逆に、それぞれの地域の特色でいいものもあります。それぞれ歴史もあれば、史跡もあれば、人や行事もある。それをどう活かしていくのかというところにまだ伸びしろがあると思います。今の活動でいっぱいだった意見については、もう少し効率的にできないのかというアドバイスがあります。事業がこれまで通り、誰かに負担が集中する仕組みでなく「ボーダークロス」という、難しいですが、連携協力して負担を軽くし、やりやすい人が活動することはできないのかということです。

最後、地域協議会でいま一生懸命やっているのだが、もう少し分野を絞って頑張ってみようということや、協議会で話し合ってもらいたいということだろうと思います。自分の考えや、地域の特性もあると思いますが、そういったテーマで話し合ってもらいたいと思います。いかがでしょうか。

【土屋委員】

質問です。米野小学校区に住んでいます。今年の夏に説明会がありました。その時出た意見のとりまとめは終わっていますか。

【事務局】

推進市民会議が始まった時は設立を目指して行ってきました。今13の小学校区で協議会ができている中で、設立だけでなく、活動をより豊かにしていこうとし

ているところです。全年から活動の発表を聞いていただき、課題の発見深堀を進めてきました。残り 3 小学校区については今年度村中小学校区で設立準備委員会が立ち上がっています。米野地区については区長さんを中心に会合を重ね、夏に大学教授を招聘し住民説明会を実施しました。なかなか区長さんの意見を聞く中で難しさもあります。活動している協議会の実施状況も説明しながら、無理なく活動が開始できるように気持ちを高める支援を実施しているところです。ここでいただいた意見でも「こんなの無理だ」との意見に対し「こういった進め方があります」という事例を話すことができています。非常に参考にさせていただいております。

伊藤先生からお話しいただいた孤立を防ぐというキーワードに対して、協議会で今行われている活動の中で高齢者や子どもの孤立防止に全く関係のない活動はむしろ無いのではないかとの印象を受けています。意味付けや意識付けではありますが、非常に大切なことをやっているのだと感銘を受けています。真剣に取り組んでいただいている委員には孤立防止に繋がる意義のある活動だと思っています。

【森川委員】

伊藤委員のコメントを前面に出したらこれから協議会を作ろうとしている団体は「こんな難しいことはできないわ」という印象を受けると思います。他の協議会でやっている程度のことであれば受け入れられる部分もあると思います。設立のための説明をする際はその点を意識した説明をしなければと思います。

【小柳委員】

補足します。13 の小学校区で活動がありますが、同じ活動ではなく地域の情勢によって活動を異にしております。特徴的なことを紹介しながら、理解を求める方法もあると思います。

【事務局】

米野小学校区の区長さんには本庄小学校区の方に説明をいただいたのですが、米野小学校区の方から「本庄小学校区とは状況が違うわ」との意見もいただいております。同じことをやろうとの意見になっていないです。行政の期待をそのまま地域に落としても理解が得られないという視点をいただくのは会議を開催した意義があり大変貴重な意見です。

【森川委員】

私が協議会を立ち上げた時は孤立させないとのテーマは設立時には聞いていませんでした。活動はなんでもいいからという話でした。

【加藤会長】

話を進めたいと思います。資料に地域（地域協議会）に関心をもってもらうためにはという項目がありますが、今の話はまさにそのテーマの話でした。分かりやすく言うと「地域協議会って何？」ってことはやっている人には自分たちの活動であったり、あの人たちがやっていることだと、よくわかる話ですが、関心がない人には「地域に協力したいけど、どんな協力ができるかわからない」状況だと思ってしまうので、そういった方にどうやって参加してもらえればいいのかというところが課題です。活動ベースだけで協力を仰いだりするとそこに意義を感じられない人がいることも事実で、特に若い人がそうなんです。「それが何に繋がるの」という意見をよく聞きます。自分にとっての費用対効果や時間対効果にどのような意味があるかをよく考えられます。目的の共有もいるし、やっている活動のバリエーションの両方いるんだと思います。どう使うかということです。伝える相手によってもどこ刺さるかは違うので、ものすごく惹かれる人もいれば、その目的のためにやっているのではないという人もいます。そういうのは使い方や伝える順番が物凄く重要なのかなと思います。

先程、森川さんが言われたことは間違いがないんですけど、いきなり活動の意義と言われても「やってるワシらも知らん」ということも、実際そうだと思います。こういった話が独り歩きしちゃうとひいちゃうということもあると思います。いろんな活動を見られている関さんどうですか。

【関委員】

ありがとうございます。もう、まさにおっしゃる通りだと思います。やはり、住民の方たちのもっている課題がそれぞれの解釈で解決に繋がっていく流れは必ず発生するところはあると思っています。ここで発表される内容と皆さんの横連携で、悩みを共有する場所と、地域の方々にそれぞれ共通言語は変わってくるのかなと思います。皆さんがおっしゃることは全てにおいて繋がってくるのかなと聞いていて思いました。以上です。

【加藤会長】

何か他にご意見は、ちょっと一言言いたいとか、大丈夫ですか。結構いい話をしたと思いますけど今のことを踏まえて、地域協議会の今後のあり方とかと、どういう風にしていくかということをおのち、今日は委員さんが15人いますので、事務局さんが設定されたテーマごとにA～Eのグループに分かれて、さっきみたいな意見交換の場を設けたいと思います。5つテーブルにA、B、C、D、Eと三角の標識が立っています。Aグループは地域課題というけど、うちの小学校区は何が問題なんだろうということを、どんなことに困っているんだろうどうやって見つけていいのかようわ

からんとの意見もあるので、課題をどう発掘していけばいいんだろうかというのをみんなで考えるのがAグループ。

Bグループは、それぞれの小学校区に地域の財産、いいもの—それは物とか建物だけじゃなくて人かもしれないし行事かもしれないし、活動かもしれないし、団体かもしれない。何があって、それをどう活かしていくことができるかという話がBグループ。

Cグループは、それぞれの小学校区にある企業さんとか団体さんがあると思うのですが、相手に関わりたくなる活動とか、どうしたら連携・協力できるようになるんだろうというのがCグループ。

Dグループは子供さんが暮らしやすい、ずっと住み続けていきたいと思える地域にするにはという話がD。

Eはお年寄り、今いらっしゃるお年寄りが安全安心で暮らせる地域づくりをしていくためにはどうしたらいいかという話です。

このテーマで話し合っしてほしいと事務局さんから承っています。

今からワールドカフェ方式で少人数集まって話し合っほしいんですが、指定の付箋を3色用意しています。1番の自助というのがブルーの付箋です。自助というのは私一人でもできることです。「地域課題の見つけ方」だったら、自分がお散歩している時や近所の人と話している時に何か困っていることはないかなとか聞きますよね。そういうことでもいいし、2番の互助は地域の仲間とできること—ちょっと自分たちで井戸端会議をしても解決策が見えてこないから関係団体でも作ってみようとかということです。なかなか難しいかもしれないです。3番の公助は地域での解決は難しいのでぜひ市役所と一緒に考えて一緒に行動しようというのが黄色で、そういう自助、互助、公助という視点を持って話をしてもらえたらと思います。おしゃべりラウンドというのが2ラウンドあるので、ABCDEのうち2つのテーマについて話してもらいます。自分はどこのテーマで話そうとを考えてもらって、仮に1ラウンド目に行こうとしていたところに人が多かったら2ラウンド目に行ってもらいたいと思います。

細かい流れは裏側を見てください。1ラウンド25分ぐらいありますので、喫茶店に行った感覚でおしゃべりをしながら話合ってもらいます。まずは座って簡単に自己紹介を少しします。そのテーマに合った自助、互助、公助を付箋に書きます。

テーマごとにホスト役が各テーブルに職員さんが1人ずつついてくれるので喫茶店のマスターのようにホストが進めてくれると思いますので、お互いに意見交換をしてください。

なるべく話していることは付箋や模造紙に直書きしてもらえるといいと思います。流れはわかりましたか。

テーマは前にも映しておきます。荷物をもって ABCDE の自分が話したいテーマの席に移動をしてもらえたらと思います。どのテーマも大事だと思います。どこで話してもらっても話は繋がっていると思います。移動してください。

今から1周ホストさんを含めて自己紹介をしてもらいます。ニックネームと活動、所属、趣味やはまっていることを話してもらいます。1周5分程度、1人1分程度話してください。

自己紹介が終わったら立て札を倒してください。ルール分かりましたか。

それではお願いします。

[自己紹介 5分]

時間になりました。ちょっとだけスクリーンを見てもらいたいです。全体のルールをお伝えします。まず、傾聴、人の話をしっかり聞きましょう。ついつい自分の話ばかりしちゃうんですけど、自分の話ばかりじゃなくて、そのテーブルのメンバーの話をしっかり聞きましょう。気が付いたら俺しかしゃべってないじゃんなんてことにはならないようにしましょう。2番目、みんなの貴重な時間なので言いたいことは簡潔に話そうということ。すっごいいいこと言っても記録に残らないと何にもならないので、なるべく付箋でも模造紙に直接書いてもいいので、記録に残しましょう。一番大事なのは3番です。今日、職員さんにも入ってもらっているんですが「そんなん違うわ」なんて言われてたら、二度と発言したくないですよ。人の意見を否定しないということ。「できるわけないじゃん」とか「行政でなんとかしろ」とか要求型ね。「予算付けろ」とか絶対だめだからね。じゃなくて「こうしたらどうかな」という提案型で話しましょう。そのほうが前向きに建設的な意見が出ると思うので。傾聴それから手短かに話すこと記録、否定しない。この3つだけは絶対覚えていてね。誰かが守れていないな、話長いなと思ったら警告だということ。机をたたいてあげてください。そしたら話長いのかなと気づいてもらえるかもしれないね。これまで机を叩いていた人は1人もいないですけどね。それぐらいの気持ちで臨むといい話合いになるかなと思います。最初の作業は、ラウンド1のちょっとだけ準備ね。自助互助公助をまず5分で、ピンクの付箋、ブルーの付箋、黄色の付箋を人数分にかけて、黒のペンが置いてあるのでそれを使ってください。自分のボールペンや鉛筆、シャーペンを使わないでね。統一感を出して見やすくするためです。黒ペンを使ってください。自助は何を書くかということ自分一人でもできることだよ。たとえば近所のおじいちゃんに元気ですか。最近どうと声をかけること。これは自ら助けること自分一人でもできるよね。地域の仲間でできることはたとえば、地域のちいさなサロンでもやろうか、そしたら引き籠りがちな人も出てこれるよね。

じゃあ集会所でやる？とかこれは互助。ピンク色に書きます。一人でもできることは青、地域の仲間たちとできそうなことはピンク、それはちょっと地域の仲間達でも無理じゃない？市役所に相談に行こうよってことは黄色と3段階で、青色から書いていくと書きやすいと思います。5分間ぐらい自分でアイデアを出す時間をとりましょう。青からピンク、黄色とね。用意スタート。正解不正解は無いので自分の感じるままに書いていいですよ。

[案出し 5分]

時間になりました。これからも付箋を増やしてもいいので、テーブルホストさんの進行でみんなでこういうことを考えたよってのを分かち合いながら、付箋を使って話し合っしてほしいと思います。20分間で1ラウンド話し合い次のテーブルに移りましょう。

[意見交換 20分]

時間になりました。お互いにお疲れ様です。
ホスト役さんにもお礼をいしましょう。ありがとうございました。別のテーブルに移動しましょう。今から25分間、付箋を書いて皆さんで共有する時間です。よろしくをお願いします。

[席移動]

[意見交換 25分]

時間になりました。みなさん拍手でお疲れ様です。(拍手)
テーブルホストさんも活躍してもらえましたか。テーブルホストさんにも拍手を(拍手)
荷物は置いたままで結構なので、テーブルホストさんはそのまま3枚一組になった丸いシールを配ってください。委員さんはシールをもって各テーブルを見て回ってほしいんです。いいなと思った付箋にシールを貼ってください。3枚あるので気持ちに応じて貼り分けたいです。ものすごい。本当にやりたいと思う物に3枚貼ってもいいし、何なら自分のやつに貼ってもいいよ。2枚はここに貼って1枚はここに貼ろうというのも、1枚1枚1枚別のやつに貼っていてもいいです。この付箋意味分かんないなというものがあればテーブルホストさんに聞いてください。今から10分以内で全てのテーブルを回ってほしいです。お願いします。

[委員評価10分]

時間になったので最後に座っていた席に一旦席に座ってもらってもいいですか。テーブルホスト役さんが一番長く全体の状況を見ていたと思うのでちょっとだけ、1人1分ずつで、どこにシールが集中していますとか、そのグループで印象に残ったことをリレー方式でダイジェストを伝えてもらおうかと思います。リレー方式でAからよろしくをお願いします。

【事務局臼井】

Aグループは「地域課題のを見つけ方とは」というテーマでした。自分の困っていることが実は地域課題につながっているのではないかとの意見が出ました。そこから他の人に話を聞いてみたり、出歩いて散歩してみたり、散歩したり、散歩すると健康にも繋がるしやりやすい。すると町の課題に気づくこともあるかもしれない。普段の自分の生活の中の繋がり以外にボランティア活動なんかに参加すると気づくこともあるかもしれない。あとは、自分の世代だけでなく、別の世代の方の話を聞くと何かに気付けるのではないかな。また、地域協議会は地域団体の先輩である区に困りごとを聞くといろんな課題が出るかもしれない、新しい気づきがあるのかもねとの意見が出ました。

【加藤会長】

素晴らしいです。ありがとうございました。

Bのほうは地域の財産とはということで発表をお願いします。拍手で（拍手）

【事務局堀田】

Bグループは「地域の財産について」話をしました。

特にシールが付いたものについてお伝えします。^{しょうげんじ}照眼寺という室町時代から続いている名所があります。八幡神社という桜のきれいな神社があります。桜祭りを地元主体でやっていたりだとか、竹藪がありタケノコを掘ったりしていたとの話を聞きました。

あとは、桃花台のほうで小学校の敷地で畑を作って青空市場をやっていますという話があり、小学校もひとつの財産だよねとの話だとか。一番シールの付いたのは子ども食堂に絡む話なんですけど、地域では耕作放棄地が今あります。一人でできることとして農作業なら一人でもできるよねとの話になりました。地元の畑でできた野菜で食べきれない物があるだろうと。そういうものが子ども食堂に集まり循環していくといいねとの話がありました。そんな話でした。

（拍手）

【加藤先生】

続いてCグループをお願いします

【事務局富樫】

Cグループは企業・団体が関わりたくなる活動とはということで話し合いをしました。まず私一人でもできることとしては、まず企業や団体を知ること、イメージすること。参加してみることです。2つ目の地域や仲間のできることとしては企業や団体に実際に訪問して話し合う、仲良くなるのが大事だなということでした。やはり企業にもあれしてよ。これしてよと言っても「ちょっとな」「予算のこともあるしな」という事になってくるのでお互いが、これをしてくれたから、地域の方々が例えば、草むしりをしてくれたから先生たちのほうも行事に参加しようかなという形でお互いに、恩返しじゃないですがやれたらなということでした。あとは、企業側にも地域に参加することで人材育成になるとか地域側にもメリットがあるよということをお伝えするだけじゃなく、気付いてもらえるようなきっかけになればいいなということでした。それに対して市役所としてできることは、そういった活動のバックアップができるのではないかとのことでした。企業や商工会議所との繋がりを作っていく、広報活動をしていけたらという意見がありました。一番シールが多く付いたのは最初に伝えた「企業や団体を知る」ということでした。私もすごいなと思ったのが、企業や団体が関わりたくなる活動ということなのですが、企業や団体に対して何ができるかということを考えてしまうのですが、こういう会社がこの地域にあるけどこういうことをしてくれないかなと考えてみる。イメージしてみるのが第一歩になるのではないかと。小さな一歩だけど、大きい成果に繋がるかもと感じたのでみんなシールをいっぱい貼ってくれたのかなと思います。

【加藤会長】

すばらしい。(拍手)では次Dグループです。拍手をお願いします。(拍手)

【事務局落合】

Dグループでは子どもが暮らしやすい地域にするにはということです。今、真ん中に書かれている「子ども食堂」というキーワードに5つのシールが貼られています。子ども食堂は食という事で一番人が繋がりやすいテーマで、子どもという事で課題を抱える方と一番繋がりやすいテーマだよねと言う話でした。そういった場があればいいよねという事で、子ども食堂にこだわらずに、そういった場ってどういうものかなとの議論になった時に、地域で楽しいイベントで子どもも大人も本気になって楽しめるイベントがあればいいなどの話がメインでした。以上です。

【加藤会長】

ありがとうございます。(拍手)

E グループお待たせしました。ひととき大きい拍手でお迎えください(拍手)

【事務局川口】

E グループはお年寄りが暮らしやすい地域にするにはというテーマで話しました。一番多くのシールが付いたのは「近助」というものです。きんじょの「じょ」は助けるという字で「近くで助ける」という近所同士で助け合うと暮らしやすいのではないかという意味です。まず自助としては声かけをお互いにする事で励まし合うことや、見守りをする事で顔見知りができ、近所同士のつながりが深まっていくという事があると思います。ただ全員が全員、近所同士で付き合いがよくなるということはなかなか難しいと思うので互助という部分で顔見知りになった方がみなさん一緒になって町内のイベントやサロンのようなものに参加しようと。集団で顔見知りになるのがいいのではないかという話がありました。公助としては、たとえば地域の高齢者が抱えている買い物難民になっているという課題に対して市役所が移動販売につなげるという役割はできるのではないかとのお話が出ました。以上です。

【加藤会長】

ありがとうございます。(拍手)身体ひとつでいいので、最初の席に集まってください。車座になりましょう。おつかれさまでした。車座ではじまり車座で終わるのですが。職員さんもせっかくでするので車座の周りに椅子を持ってきて座ってください。

[席移動]

今日2ラウンド、その前の車座の時もけっこういい話がありましたよね。本質的な話。森川さんが口火を切ってくださって、「そもそも協議会ってさ」って話をされたのが印象に残っています。半日を通して感じたことや気付いたことを分かち合いたいのですが、いきなりぱっと言ってくださいと言っても、話しにくいと思うので、ご近所と2人3人で感想をシェアしてもらってもいいですか。お隣の方と。ではどうぞ。

[委員 感想を共有]

宴もたけなわでございますが、何人かこんなこと話したよということや感想をシェアしてもらってもいいですか。自分のじゃなくてもお隣の人でも紹介してもらっても構いません。目が合ったのでタカさん、どうでしょうか。

【高島委員】

自分は今日参加させてもらって、例えば一人でできることとして、子どもたちに挨拶をしてみようという話があったのですが、地域の方とか下校中の小中学生に挨拶をするかという、難しいかなと思いました。でも、地域のごみ拾いを綺麗にするとかは一人でもやれるので、自分でもできるかなと思いました。誰かと関わることは難しいかなと思う人もいるのではと思いました。以上です。

(拍手)

【加藤会長】

他、どなたでも結構です。もう当てませんので。あれ、さっきお話ししてたよね。みんなおすそわけしてください。

【小柳委員】

今日出た意見はとても素晴らしい意見なのでこれをどうやって私らの地域で活かすかということです。子ども食堂だけでも声かけはあるんですよ。いい意見だし。残念だけど手が足りなくてやれないんです。話を持ってきてくれた方の情熱をくんで活かしていかなくてはと思います。

【加藤委員】

本当は全員に感想をシェアしてもらいたいのですが、もうお別れの時間です。前半議論が白熱したので1周できなくて残念です。

今日は僕から1つだけ事例を紹介したいです。いま「どうする家康」で盛り上がっている岡崎市の中心市街地の QURUWA 地区の話です。7つの町内会が「もう別々でやってたらあかんわ。一緒にやろうじゃないか」ということで、岡崎にある「りた」という NPO さんがサポートに入って、7つの自治会で連合町内会を作ろうじゃないかということになり、筒井さんという地域で商いをやっている50代の方が音頭を取って、毎月1回、日曜日の夜に3時間毎回50人か60人集まるんですよ。地域の役員さんだけじゃなくて、中には協力して地域を盛り上げていきたいという思いで事業者さんも来るんです。岡崎の中でも中心部なので商いをやっている人も来る。行政も来る。NPOさんや社協さんも来ています。何をしているかという、みんなでワイワイ話しているんです。ルールが一つあります。行政が手を出さない。自分たちでやりますと言うのがルールです。人もお金はいらないから余計なこと言うなよという事です。なぜ行政の人が来るかという、ここに来ると地域の情報が一番手に入るからです。ビジネスの人たちも一緒にネットの情報よりも、ここに来たほうが早いからです。Zoomでの参加も含めると60人どころじゃないそうです。そこから素敵なことが起こってきて「次世代

の会」という 50 代以下の若手のグループができて、続けていくためにはという事を考えられて、ここで生まれた取り組みを「QURUWA アワード」という「この地域でできた、このイベント面白いですよ」と活動紹介をするような取り組みを始めています。最近では 20 代 30 代の子たちが「Q-NEXT」というまちづくり会社を立ち上げてビジネスにしています。ちゃんと儲けを出して専業兼業で事業を実行していこうという流れが起きつつあります。これってまさに今日やったことが全部入っているんじゃないですか。岡崎でやっている事なので小牧のそれぞれの地区でやってくれという事ではないですよ。さっきも「ハードルが高いんじゃない」という話ありましたよね。でも、ここにいないもっと若い世代を巻き込めば、ひょっとしたらこの地域の自治をもっと面白くクリエイティブにできるかもしれないよね。ビジネスも含めて新しい分野として開拓していこうとしていて、岡崎が今アツい。そんな話の紹介でした。

この場にいらっしゃっている委員さん、この場をセッティングしてくださった市役所さん。めちゃくちゃ忙しいのに駆けつけてくださった伊藤先生。みんなに拍手をお願いします。

(拍手)

【事務局】

ありがとうございました。それでは事務局より連絡をさせていただきます。皆さんのテーブルにひとことアンケートを配布させていただきました。ご記入いただいてからお帰りください。続けて、交通安全についてご連絡させていただきます。日没が早くなり夕暮れ時から夜間にかけて事故が多くなります。交通事故にお気をつけていただければと思います。次第のほうにも書かせていただいておりますが、次回 3 月 6 日に同じ場所で第 4 回の会議を予定しております。ご予約をよろしくをお願いします。少し時間を過ぎましたが、皆様のご協力をいただきまして会議を終わることができました。大変お疲れ様でした。